

\*\*\*\*\*

20世紀は、まさに「電気文明」の世紀だった。電気を利用することで人々の生活は格段に快適・便利になった。ただし少し快適・便利になり過ぎたのかもしれない。ここ数年、夏が近づくと電力不足を心配して「電気を大切に」といったテレビCMが流されているが、私たちは必要以上に快適・便利を求めて電気を使っているのではないだろうか。電気エネルギーに限らないが、地球規模でエネルギー資源の枯渇あるいは温暖化が叫ばれる中、何か違う選択肢が必要なのではないだろうか。しかし、その選択肢が「貧しい昔に戻る」のではなく、「新しい豊かさを実現する」ものでなくては面白くない。

そこで、新しい豊かさを実現できる非電化製品を発明してみたくなった。冷房、冷蔵庫、掃除機、洗濯機、照明、除湿機...といった一連の非電化製品を4年がかりで実現してみた。電化製品には敵わないが、ほどほどの快適・便利でゆるされるなら、非電化でも実現できるということが確かめられた。例えば非電化除湿機。10畳くらいの部屋なら十分に使える能力はあるし、補給品も一切不要。故障の心配はなく、50年は使えるという点では快適・便利だが、湿気を吸って満杯になると2時間ほど陽光にさらさなければならぬという厄介さを伴う。エコ

# 楽しい 非電化のすすめ

藤村 靖之

Written by Yasuyuki Fujimura

## 藤村 靖之(ふじむら・やすゆき)

(株)非電化工房代表・工学博士。1944年生まれ。73年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程卒業。(株)コマツ熱工学研究室長を経て83年に独立し、発明した製品を販売し事業を起こす「発明起業家」に転身する。「非電化工房」以外に「発明工房」「発明起業塾」を主宰して後進を育て、起業家を支援している。主な著書は、『楽しい非電化』(洋泉社)、『さあ、発明家の出番です』(風媒社)、『企業家は未来に点を打つ』(H&L)など。

\*\*\*\*\*

ロジー派の人からは「少々面倒だけど、電気が要らない、何も捨てない、半永久的に使えるからいい!」と好評だったが、一般の人からは「面倒くさい!」と不評だった。

もう1つ分かったことがある。非電化製品は使いようによっては、電化製品よりも愉しめるといふことだ。例えば、非電化珈琲焙煎器。無農薬有機栽培の質の高い生豆を安い価格で購入し、自分好みに煎って、「煎りたて、挽きたて、淹れたて」の絶品の珈琲をゆっくり愉しむ。最高の贅沢を最低の価格で実現できることに驚かされる。いま、ささやかなブームになっている。

最近、発展途上国と言われる国から「お呼び」がかかることが多くなった。これらの国では、アメリカや日本のような電化製品に憧れている人が多く、実際に電化製品の普及率が急速に高くなりつつある。多くの人が指摘しているように、このまま進むと地球がアウトになってしまう。何かできることはないか...と考えたのが、「非電化」に取り組んだそもそもの動機だった。モンゴルでは遊牧民のために非電化冷蔵庫をプレゼントした。電気のない生活をしている遊牧民は、夏に羊の肉が腐り、困り果てていたからだ。非電化冷蔵庫は、空が澄んでいるほど効率が高くなる原理だ。5等星までくっきり見えるほどにモンゴルの空は澄み切っていたので、非電化冷蔵庫は真っ昼間でも4度以下を維持できて喜ばれた。ナイジェリアやセネガルでも非電化プロジェクトが進行している。「非電化」は少なからぬ人に勇気を与えられるかもしれない。

非電化工房ホームページ  
<http://www.hidenka.net>

\*\*\*\*\*

多様なエネルギーが生み出す暮らしの価値